九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Development and Validation of a Prediction Rule Using the Oxford Classification in IgA Nephropathy

田中, 茂

https://hdl.handle.net/2324/1500550

出版情報：九州大学, 2014, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）

（別紙様式２）

氏　　名	田中　茂
論　文　名	Development and Validation of a Prediction Rule Using the Oxford Classification in IgA Nephropathy
論文調査委員	主　査　　九州大学　　教授　　内藤　誠二 副　査　　九州大学　　教授　　松尾　恵太郎 副　査　　九州大学　　教授　　小田　義直

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

筆者らは、本論文において、IgA腎症患者における末期腎不全（ESRD）の発症を予測するための新たな予後予測ルールを作成し、妥当性を検証した。IgA腎症の実地診療において、経皮的腎生検による腎予後の推測は治療方針を決定する上で重要である。しかしながら、個々の症例に関して、生検時の臨床・腎病理所見に基づく正確な腎予後予測は未だ困難である。本論文では、腎生検を受けたIgA腎症患者において、個々の症例が有する臨床特性（尿蛋白、腎機能、病理組織パラメータ）を点数化し、その総和に応じて、5年後のESRD発症の絶対リスクを推算できる予後予測ルールを作成した。さらに、独立した検証コホートを用いて、その外的妥当性を検証した。特に、個々の病理組織学的パラメータと臨床パラメータそれぞれの腎予後予測に対する寄与を明らかにし、重み付けを与えた点が重要である。以上の研究により、IgA腎症患者における新たな予後予測ルールが、疾患早期段階においてハイリスクグループを抽出できる可能性が示唆され、早期治療を通じた疾患予後の改善や個別化医療の実現につながる重要な知見と考える。

以上の成績はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験は、まず論文の研究目的、方法、研究結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったがいずれについても適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。